

科目名	生徒指導論特講	担当者	セキカワ 関川 エツオ 悦雄	期間	通年	単位数	4
-----	---------	-----	-------------------	----	----	-----	---

【科目概要】

目的	<p>本科目は、小・中学校や高等学校における生徒指導の基礎理論や内容・方法について、人間形成や学校教育の観点からとらえ直し、そして集団不適応や問題行動—いじめ・不登校・授業崩壊など—への対応のしかたや、進路指導の実際を探ることを目的とする。具体的な課題としては、子どもの人格形成にかかわる学習指導・教育相談・進路指導などの諸問題、学級活動・生徒会活動・学校行事・部活動などにおける指導上の諸問題を取り扱う。合わせて、その指導に当たる教員の資質内容の問題やその指導基盤に当たる日本の公教育制度・教育行政の内容や、さらに日本との比較対象たるドイツの教育制度—三分岐型学校制度やマイスター制度にも言及する。</p>		
到達目標	<p>本科目の学修目標は、受講者が学習・教科指導上の諸問題や教科外活動—学級活動や部活動など—の諸問題、学校教育の基盤にある公教育制度・教育行政などの諸問題を多角的に複眼的に把握し、それらの諸問題を深く考察できるようにすることにある。</p>		
学修方法	<p>まず、指定されたテキストを中心に、熟読しその上で課題に適切に答えるように要点をおさえつつ論述し、テキスト原文を使用する場合は、それに「……」という引用符を付することが不可欠である。参考図書もできるだけ目を通してから、その要点をふくらませるようにしてレポートを書き始めて下さい。レポートの作成に当たっては、全体のタイトルを付け、次に節（項）の見出しを付けて、最後に参考文献も明示することである。枚数は最低でも4枚以上。</p>		
スケジュール	<p>基本教材1のレポート課題（1）（2）の提出時期は9月中旬。 基本教材2のレポート課題（1）（2）の提出時期は1月11日まで。</p>		
成績評価	種別	割合	評価基準
	レポート	90%	<ul style="list-style-type: none"> ・使用テキストの正確な解釈 ・参考図書の参照度 ・論述の精度
	平常評価	10%	<ul style="list-style-type: none"> ・レポート添削への対応 ・受講の意欲的な姿勢
履修者への要望	<p>受講者をご自身の学校生活の一こま一こまを振り返りながら、ご自身の指導でもってどうしたら子どもの人格形成に寄与できるかという観点から、テキストに沿って一つ一つの課題を整理して下さい。</p>		

【レポート課題】

基本教材 1	
教材の概要	著者名： 岩城孝次・森嶋昭伸編著 教材名： 『生徒指導の新展開』（ミネルヴァ書房，2008年）ISBN:978-4-62-305167-0 2,500円+税
	この教材は生徒指導について、人間形成や学校教育との関係からとらえて、その上で生徒指導の基本・内容・方法に触れ、さらに不適応や問題行動への対応、そして進路指導のあり方にも言及しているテキストである。この点で、生徒指導は、広義に見て生徒自身の生き方や人格形成を導く重要な教育活動である。学習のポイントとしてはいわゆる口うるさい生徒指導に焦点をあてるのではなく、もっとほんわかとした人情の機微に触れるような指導のありように目を向けるべきでしょう。
参考図書	仙崎武・野々村新編著『生徒指導・教育相談・進路指導（改訂）』（田研出版，2012年）ISBN:978-48-6-089036-0 2,400円+税 関川悦雄『最新特別活動の研究』（啓明出版，2010年）ISBN:978-4-87-448032-8 2,000円+税
履修上のポイント	学校教育の主人公はいうまでもなく子どもである。学校においては、すべての活動・営みは子どものために成立する。通常、子どもの課業は教科授業で学習指導を受けることであるが、もう一方には学校生活全般にわたる、いわゆる生徒指導を受けることでもある。このように、生徒指導は厳しい生活指導のみを言うのではなくて、学校生活の一こま一こまにおける子どもの人格形成に係わる学習指導、教育相談、進路指導、そして学級活動・学校行事・部活動などの分野にわたって行われる。
レポート課題 1	学校教育における生徒指導の意義・目標について、人間形成・教育課程や指導体制などの項目ごとに整理して論述して下さい。 留意点： 同教材の第1～4章・7～8章・11章を中心に論述すること。
レポート課題 2	生徒指導の取り扱うべき具体的内容や方法について、不適応・問題行動などの指導や新たな進路指導などの項目ごとに整理して論述して下さい。 留意点： 同教材の第5～6章・9～10章・12～14章を中心に論述すること。

基本教材 2	
教材の概要	著者名： 河村茂雄編著 教材名： 『生徒指導・進路指導の理論と実際』（図書文化社，2011年）ISBN:978-4-81-001578-2 2,200円+税
	この教材では、生徒指導を学校で営まれるすべての教育活動を通じて行なわれる機能概念だと見なして、教師はあらゆる場面において適切な対応が求められる、とする。具体的な対応としては、子どものかかえる諸問題—学業不振、不登校、いじめ、進路指導、学級崩壊・授業崩壊などにどう対応し、解決を図るかを明示している。とくに、教師は領域概念で示された学習指導と、機能概念で示された生徒指導を同時に並行してこの二つをうまく展開すれば、学級集団の運営は円滑に図られる。
参考図書	江川玟成編『生徒指導の理論と方法』（学芸図書，1993年）ISBN:978-4-76-160224-6 河村茂雄『Q-U式学級づくり（中学校）』（図書文化，2008年）ISBN:978-4-81-008529-7 2,000円+税 河村茂雄『学級集団づくりのゼロ段階』（図書文化，2012年）ISBN:978-4-81-001605-5 1,400円+税
履修上のポイント	学校教育の基盤は教師による学級経営にある。授業を行なう以前に、この学級経営をどう進めるかが重要であると考えてよい。その場合、教師の子どもに対する対応には3段階の援助レベルがある。すなわち、1次援助はすべての子どもがもつ発達上のニーズに対応する援助—子ども間のつき合い方・進路相談など、2次援助は教育配慮を要する子どもへの援助—不登校傾向・不安感の強い生徒など、3次援助は特別な援助を要する子どもに対する援助—いじめ・不登校などがある。この3段階の援助を適切に行うようにすれば、教科授業も円滑に展開されると判断できよう。
レポート課題 1	学校教育において現実的な対応を求められる生徒指導の意義・方向性・生徒理解の方法・指導行動、そしてキャリア教育の実際を論述して下さい。 留意点： 上記教材の第1～5章を中心に論述すること。
レポート課題 2	学級崩壊・授業崩壊の現状とその理解と対応、非行問題・いじめ・不登校の各問題の現状とその理解や対応を論述して下さい。 留意点： 上記教材の第7～11章を中心に論述すること。

科目名	生徒指導論特講	担当者	シバヤマ ヒデキ 柴山 英樹	期間	通年	単位数	4
-----	---------	-----	-------------------	----	----	-----	---

【科目概要】

目的	<p>本科目では、子どもの生きづらさや若者の働きづらさという現状を踏まえながら、学校教育における生活指導や進路指導（キャリア教育）のあり方について探究していく。</p> <p>前期においては、現代の子どもと社会と直面している課題をどう捉えるのか、それを踏まえた上で、どのような生活指導を行っていくのかを理解することを目的としている。社会のなかで生きていくためにどのようなものを形成すべきか、生活指導の歴史的な変遷と現代的な課題を踏まえながら学んでいく。</p> <p>後期においては、生き方と働き方を関連させたキャリア教育のあり方を考えることを目的としている。まず、その前提となる学校から社会への移行過程が変容し、若者がおかれている状況を理解する。その上で、現状のキャリア教育を批判的に検討しながら、今後のキャリア教育のあり方を探究していく。</p>		
到達目標	<p>本科目では、次の三点を学修の目標としている。生活指導やキャリア教育について、その歴史的・社会的背景を踏まえながら、論じることができる。また、課題に関する参考図書や文献資料を収集しながら、批判的かつ客観的に分析ができる。さらに、自ら問いを立てながら考察し、自分の考えを深めることができる。</p>		
学修方法	<p>まず、基本教材を熟読し、課題を把握することが大切である。次に、関連する図書や文献を読み、課題に関する理解を深めてほしい。また、基本教材1で論争的に取り上げられている文献については、その一次資料にあたり、筆者の見解を批判的かつ客観的に検証してほしい。基本教材2は、参考図書等を合わせて読みながら、移行プロセスの現状と課題を把握してほしい。</p>		
スケジュール	<p>基本教材1のレポート課題は、9月課題提出締切日までに提出すること。</p> <p>基本教材2のレポート課題は、1月課題提出締切日までに提出すること。</p> <p>なお、課題提出前に草稿を提出し、担当者のコメントに基づき、修正しながら最終稿を作成する。</p> <p>基本教材1の課題1は6月中、課題2は8月中に草稿を提出すること。</p> <p>基本教材2の課題1は11月中、課題2は12月中に草稿を提出すること。</p>		
成績評価	種別	割合	評価基準
	レポート	80%	テキストの理解度、着眼点、論理展開、適切な引用など。 形式面・内容面で不備がないこと。
	平常評価	20%	レポートの添削やアドバイスへの対応など。
履修者への要望	<p>課題について理解を深めて、適切に論述すること。そのためにも、積極的に参考図書や関連する事項について文献調査を行い、考察を深めること。レポートは、章立てをして、正確に引用しながら、最後に参考文献も明記すること。枚数は最低でも4枚以上。</p>		

【レポート課題】

基本教材 1	
教材の概要	著者名： 折出健二 教材名： 『市民社会の教育—関係性と方法—』 (創風社, 2003年) ISBN:978-4-88-352080-0 2,400円+税
	本教材は、市民社会をどのようなものとして築いていくのか、その過程での教育的関係性はどうかあるべきかを、主として生活指導研究の立場から考察したものである。これまでの民間教育運動における生活指導・集団づくりを歴史的に相対化し、新たな「子ども集団づくり」を提起している。
参考図書	山本敏郎・藤井啓之・高橋英児・福田敦志『新しい時代の生活指導』(有斐閣, 2014年) ISBN:978-4-641-22034-8 竹内常一・折出健二編『生活指導とは何か(教師のしごとシリーズ1)』(高文研, 2015年) ISBN:978-4-87498-576-2 2,300円+税 原武史『滝山コミュニオン—九七四』(講談社, 2010年) ISBN:978-4-06-276654-8 500円+税
履修上のポイント	本書を理解するには、生活指導に関する歴史的な背景を踏まえておく必要がある。参考図書『新しい時代の生活指導』には、生活指導の理念と歴史が整理されているため、参考になる。また、参考図書『生活指導とは何か』では、全国生活指導研究協議会(全生研)の今日のスタンスが確認できるだけでなく、それに関する基礎文献の紹介も参考になる。さらに、参考図書『滝山コミュニオン—九七四』では、集団づくりの実践を振り返り、教師の立ち位置の問題について鋭く指摘している。
レポート課題 1	第一部を読み、「市民」「公共性」「自立」「他者」「指導」「援助」などの鍵概念に着目しながら、筆者が主張する「関係性と方法」について述べ、それらに対する自分の意見を述べなさい。 留意点 ：著者が用いる鍵概念の解釈や位置づけについて、他の見解を参照しながら検討すること。
レポート課題 2	第二部を読み、これまでの生活指導や集団づくりの問題点や課題を整理しつつ、著者が提案する新しい生活指導について述べ、それに対する自分の意見を述べなさい。 留意点 ：生徒指導における集団主義の傾向について、どう考えるかを検討すること。

基本教材 2	
教材の概要	著者名： 児美川孝一郎 教材名： 『権利としてのキャリア教育』 (明石書店, 2007年) ISBN:978-4-7503-2559-0 1,800円+税
	まず、子どもと若者の「学校から仕事への移行」「大人への移行」過程の困難な状況を踏まえ、なぜキャリア教育が求められているのかを論じられている。その上で、今日の教育政策としてのキャリア教育の展開を批判的に検討しながら、子どもと若者に保障されるべき権利としてのキャリア教育を展望したものである。
参考図書	乾彰夫『<学校から仕事へ>の変容と若者たち—個人化・アイデンティティ・コミュニティ』(青木書店, 2010年) ISBN:978-4-250-21005-1 2,900円+税 乾彰夫『若者が働きはじめるとき—仕事、仲間、そして社会』(日本図書センター, 2012年) ISBN:978-4-284-30448-1 1,500円+税 本田由紀『教育の職業的意義—若者、学校、職業をつなぐ』(筑摩書房, 2009年) ISBN:978-4-480-06523-0 740円+税
履修上のポイント	本書を理解するには、学校から仕事への移行過程の変容と若者を取り巻く現状を把握しておく必要がある。参考図書『<学校から仕事へ>の変容と若者たち—個人化・アイデンティティ・コミュニティ』は、この点を歴史的に検討し、先行する西ヨーロッパの移行過程の変容を踏まえながら、若者のアイデンティティの課題について論じている。また、参考図書『若者が働きはじめるとき—仕事、仲間、そして社会』は、若者の働きづらい現実を論じたものであり、関連する文献紹介も参考になる。さらに、参考図書『教育の職業的意義—若者、学校、職業をつなぐ』では、キャリア教育の問題点を指摘しつつ、「教育の職業的意義」を高めるための提案がなされている。
レポート課題 1	第一章と第二章を読み、学校から仕事へ移行過程の現状と課題について考察した上で、なぜキャリア教育が求められているのかを論述し、それに対する自分の意見を述べなさい。 留意点 ：基本教材のみならず、参考図書等の文献を参照し、移行過程の変容を歴史的に検討しつつ、若者がどのような困難に直面しているのかを考察すること。
レポート課題 2	第三章から第五章までを読み、著者が提案するキャリア教育について論述し、それに対する自分の意見を述べなさい。 留意点 ：今日の教育政策としてのキャリア教育の展開の問題点や課題を踏まえつつ、考察すること。